

メルコリゾート、2019年第2四半期の記録的な調整後プロパティ EBITDAを発表し、四半期配当をADS1株当たり0.16512米ドル増配

【2019年7月24日水曜日マカオ発】アジアにおいてゲーミングおよびエンターテインメントを提供する統合型リゾート施設の開発・所有・運営を行うメルコリゾート&エンターテインメント・リミテッド(NASDAQ:MLCO、以下「メルコリゾート」または「当社」)は、未監査の2019年第2四半期の決算を本日発表しました。

2019年第2四半期の営業総収入は14億4270万米ドル、前年同期の12億2,860万ドルから約17%増となりました。営業総収入増の主な要因は、ローリングチップ並びにマス・ゲーミング・テーブル分野の好業績及び2018年6月のモーフィアスの開業によるノンゲーミング分野の売上の増加によるものでした。

2019年第2四半期の営業利益は2億0,530万米ドルで、前年同期の1億1,810万米ドルと比較して74%増となりました。

2019年第2四半期の調整後プロパティ EBITDA は4億4,220万米ドルであり、前年同期の3億5,550万米ドルと比較して24%増となりました。

2019年第2四半期の純利益は1億0,030万米ドル(ADS1株当たり0.22米ドル)で、前年同期は5730万米ドル(ADS1株当たり0.12米ドル)でした。2019年及び2018年の第2四半期における非支配株主に帰属する純損失はそれぞれ300万米ドルであり、いずれもスタジオ・シティとシティ・オブ・ドリームス マニラに関連するものです。

メルコリゾートの会長兼最高経営責任者(CEO)であるローレンス・ホーは、次のように述べています。

「2019年第2四半期の間、マカオの全ての統合型リゾートでテーブルゲーミングの堅調な収益増を達成しており、グループ全体のプロパティ EBITDA を、最高記録であり前年比約24%増の4億4,200万米ドルへと拡大させる要因となりました。」

「受賞歴のあるモーフィアスのさらなる強化と2階に新たなVIPスペースを開設したことにより、シティ・オブ・ドリームスは2019年第2四半期における優れた業績を達成し、VIP来訪数、マス・テーブル・ゲーミング収益及びプロパティ全 EBITDA の全ての顕著な成長を実現しました。」

「第2四半期の間、スタジオ・シティとアルティラもまた、堅調なマス・ゲーミング・テーブル収益の増加を達成し、マカオのマス・ゲーミング市場における当社の強さ及びマカオでのマス・ゲーミング部門並びにプレミアム・マス・ゲーミング部門での当社の支配的な立場を際立たせています。」

「常に最高峰を目指そうとする当社の姿勢は広く認識されており、直近ではモーフィアスが2019年アジア・パシフィック・プロパティ・アワードで最優秀マカオホテル建築賞及び最優秀マカオ新規ホテル建築・デザイン賞を受賞したことに表れています。当社の受賞歴のあるショーであるザ・ハウス・オブ・ウォーターは、2019年グローバル・ゲーミング・エキスポ(G2E)・アジア・アワードにおいも、統合型リゾートにおける非ゲーミング部門の最優秀賞を受賞しました。これらの受賞歴は、当社がアジアの一流統合型リゾート・オペレーターであることに寄与しております。」

「スタジオ・シティでは、今年1月の臨時アトラクションのレジェンド・ヒーローズ・パーク、2月のショーハウス・ナイト・クラブ及び3月のトランポリンパークのフリップ・アウトの開業しなど、一連の施設アップグレードにより引き続き当社のエンターテインメント・メニューの充実に努

めています。まもなく、アジアで最大のバーチャルリアリティーゾーンとなる、5 万平方フィート（注：約 4,645 平方メートル）の常設のレジェンド・ヒーロー VR パークを開業する予定です。」

「当社の取締役会は、当社の現在の資金流動性と将来予期される資本ニーズに鑑み、前四半期において 1 普通株あたり 0.0517 米ドルであった四半期配当を、1 普通株あたり 0.05504 米ドル、すなわち 1ADS 当たり 0.16512 米ドルに増額することを決定しました」

「2019 年 5 月には、当社は CPH クラウン・ホールディングス・Pty リミテッドからクラウン・リゾート（以下「クラウン」）の 19.99%の株式を取得することにつき合意したと発表しました。当社のクラウンへの投資は、オーストラリアでの真の統合型リゾート体験のプレミアムな提供者としての戦略的株式の取得のための素晴らしい機会となると信じています。」

「2019 年 7 月には、当社はメルコ・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッド（以下「メルコ・インターナショナル」）から、メルコ・インターナショナルが保有する ICR キプロス・ホールディングス・リミテッド（以下「ICR キプロス」）の全株式を取得することを合意したと発表しました。この株式は ICR キプロスの持分の 75%に相当します。ICR キプロスとその子会社は、キプロスの特定複合リゾートであるシティ・オブ・ドリームス・メディタレニアンの開発を進めています。シティ・オブ・ドリームス・メディタレニアン プロジェクトは現在建設段階で 2021 年の開業を予定しており、ヨーロッパにおける最大でプレミアムな統合特定リゾートになると見込まれています。」

「最後に、日本進出については引き続き当社として特に注力していきます。当社は、我々の日本大阪における統合型リゾートであるシティ・オブ・フューチャーのデザインを 5 月に発表しました。また、我々は横浜市の RFI に参加し大阪府・大阪市の RFC に参加する予定です。当社が注力するアジアのプレミアム分野は、高品質な施設および世界トップレベルのエンターテインメントの提供とともに、市場をリードするソーシャルセーフガードならびにコンプライアンスに向けて尽力し、地方自治体や地域社会にとって理想的なパートナーとなることを当社の責務として捉えております。これによりメルコリゾートは、世界に類を見ない日本ならではの特徴ある統合型リゾートを開発するという日本のビジョン実現を、力強くサポートできると信じています」

シティ・オブ・ドリームス第 2 四半期業績

シティ・オブ・ドリームスの営業総収入は、前年同期の 5 億 7,780 万米ドルに対し、2019 年第 2 四半期（2019 年 6 月 30 日末日）では 7 億 9,080 万米ドルでした。シティ・オブ・ドリームスの調整後 EBITDA は、前年同期の 1 億 7,150 万米ドルに対し、2019 年第 2 四半期では 2 億 5,080 万米ドルでした。調整後 EBITDA の増加は、主にグループ全体のローリングチップ及びマス・ゲーミング・テーブル分野の業績が好調であったことによるものです。

ローリング・チップ・ボリュームは横ばいに推移し、前年同期の 105 億米ドルに対し 2019 年第 2 四半期は 149 億米ドルでした。ローリングチップの還元率については、2018 年同期の 2.88%に対し、2019 年第 2 四半期では 3.16%となりました。ローリングチップ還元率の想定範囲は 2.85~3.15%です。

マス・ゲーミング・テーブルの売上は 13 億 7,220 万米ドルであり、前年同期の 11 億 8,240 万米ドルから売上増となりました。マス・ゲーミング・テーブルの売上比率は、前年同期の 28.4%に対し、2019 年第 2 四半期では全体の 31.6%となりました。

ゲーミング・マシンによる売上は、2018 年同期の 11 億 1,690 万米ドルに対し、2019 年第 2 四半期では 10 億 3,780 万米ドルとなりました。ゲーミング・マシンの還元率は、2018 年同期の 5.1%に対し、2019 年第 2 四半期では 3.8%となりました。

シティ・オブ・ドリームス マカオのノンゲーミングの総売上は、前年同期の 7,700 万米ドルに対し、2019 年第 2 四半期では 9,840 万米ドルとなりました。

アルティラ・マカオ第 2 四半期業績

アルティラ・マカオの営業総収入は、前年同期の 1 億 2,310 万米ドルに対し、第 2 四半期（2019 年 6 月 30 日末日）では 1 億 0,430 万米ドルとなりました。アルティラ・マカオの調整後 EBITDA は、前年同

期の1,830万米ドルに対し、2019年第2四半期では850万米ドルとなりました。調整後 EBITDA の減少は主にローリングチップ部門の軟調な業績によるものです。

ローリング・チップ・ボリュームは、前年同期の48億米ドルに対し、2019年第2四半期総売上では44億米ドルでした。ローリングチップの還元率は、前年同期の3.65%に対し、2019年第2四半期では2.95%となりました。ローリングチップ還元率の想定範囲は2.85~3.15%です。

マス・ゲーミング・テーブルの売上は1億5,000万米ドルであり、前年同期の1億3,190万米ドルから減少となりました。マス・ゲーミング・テーブルの売上比率は、前年同期の19.7%に対し、2019年第2四半期では全体の22.5%となりました。

ゲーミング・マシンによる売上は、前年同期の3,000万米ドルに対し、2019年第2四半期では8,350万米ドルとなりました。この増加の要因は、主に、前年同期では129台であったゲーミング・マシンの平均台数が、2019年第2四半期では171台に増加したことによるものです。ゲーミング・マシンの還元率は、前年同期の6.3%に対し、2019年第2四半期では4.4%となりました。

アルティマ・マカオのノンゲーミングの総売上高は、前年同期の670万米ドルに対し、2019年の第2四半期について、660万米ドルでした。

モカ・クラブ第2四半期業績

モカ・クラブの営業総収入は、前年同期の2,800万米ドルに対し、2019年第2四半期では2,890万米ドルとなりました。モカ・クラブの調整後 EBITDA は、前年同期の520万米ドルに対し、2019年第2四半期は、530万米ドルとなりました。

ゲーミング・マシンによる売上は、前年同期の6億1,850万米ドルに対し、2019年第2四半期では6億0,940万米ドルとなりました。ゲーミング・マシンの還元率は、2018年第2四半期の4.5%に対し、2019年第2四半期は4.8%でした。

スタジオ・シティ第2四半期業績

スタジオ・シティの営業総収入は、前年同期の3億1,410万米ドルに対し、第2四半期（2019年6月30日末日）では3億2,890万米ドルとなりました。スタジオ・シティの調整後 EBITDA は、前年同期の7,320万米ドルに対し、2019年第2四半期では9,480万米ドルとなりました。調整後 EBITDA の増加は、主にマス・ゲーミング・テーブル部門の好調な業績結果によるもので、ノンゲーミング部門の売り上げ減少により一部相殺されます。

マカオ市場全体のVIPの不振及びコタイとその周辺の競争の増大の影響を受け、スタジオ・シティのローリング・チップ・ボリュームは、2018年第2四半期の61億米ドルに対し、2019年第2四半期では31億米ドルとなりました。ローリングチップの還元率は、前年同期の2.66%に対し、2019年第2四半期では2.76%となりました。ローリングチップ還元率の想定範囲は2.85~3.15%です。

マス・ゲーミング・テーブルの売上は、前年同期の8億1,430万米ドルから増加し、2019年第2四半期では8億7,700万米ドルとなりました。マス・ゲーミング・テーブルの売上比率は、前年同期の24.5%に対し、2019年第2四半期では全体の29.2%となりました。

ゲーミング・マシンによる売上は、前年同期の6億1,490万米ドルに対し、2019年第2四半期では6億3,090万米ドルとなりました。ゲーミング・マシンの還元率は、前年同期の3.4%に対し、2019年第2四半期では3.2%となりました。

スタジオ・シティのノンゲーミングの総売上高は、前年同期の4,430万米ドルに対し、2019年第2四半期では3,690万米ドルとなりました。

シティ・オブ・ドリームス マニラ第2四半期業績

シティ・オブ・ドリームス マニラの営業総収入は、前年同期の1億7,390万米ドルに対し、第2四半期（2019年6月30日末日）では、1億7,610万米ドルとなりました。シティ・オブ・ドリームス

マニラの2019年第2四半期調整後 EBITDA は、前年同期の8,730 万米ドルに対し、8,280 万米ドルとなりました。

エンターテインメント・シティとその周辺の市場における競争の増大に伴い、シティ・オブ・ドリームス マニラのローリング・チップ・ポリウムは、前年同期の30 億米ドルに対し、2019 年第2 四半期では19 億米ドルとなりました。ローリングチップの還元率は、前年同期の3.7%に対し、2019 年第2 四半期では5.2%となりました。ローリングチップ還元率の想定範囲は2.7~3.0%です。

マス・ゲーミング・テーブルの売上は1 億9,280 万米ドルであり、前年同期の1 億9,690 万米ドルから減額となりました。マス・ゲーミング・テーブルの売上比率は、前年同期の29.4%に対し、2019 年第2 四半期では全体の30.4%となりました。

ゲーミング・マシンによる売上は、前年同期の8 億5,590 万米ドルに対し、2019 年第2 四半期では9 億4,510 万米ドルとなりました。ゲーミング・マシンの還元率は、前年同期の5.9%に対し、2019 年第2 四半期では5.4%となりました。

シティ・オブ・ドリームス マニラのノンゲーミングの総売上高は、前年同期の2,920 万米ドルに対し、2019 年第2 四半期では3,180 万米ドルとなりました。

その他の業績要因

2019 年第2 四半期の純営業外費用合計は1 億0,740 万米ドルであり、そのうち支払利息は7,590 万米ドルで、一部は2,310 万米ドルのその他営業外支出により相殺されました。

2019 年第2 四半期の減価償却費である1 億5,980 万米ドルのうち、1,420 万米ドルはゲーミング施設の営業権の償却費、570 万米ドルは土地使用権の償却費に関わるものでした。

本書に記載されているスタジオ・シティの調整後 EBITDA は、SCIHL の2019 年7 月24 日付未監査の2019 年第2 四半期決算発表（以下「スタジオ・シティ四半期決算発表」）に記載されているスタジオ・シティの調整後 EBITDA と比較して、2019 年第2 四半期については1,230 万米ドル多くなっています。スタジオ・シティ四半期決算発表に記載されているスタジオ・シティの調整後 EBITDA には、本書に記載されているスタジオ・シティの調整後 EBITDA には反映されていない、メルコグループ内手数料が反映されています。当該メルコグループ内手数料には、SCIHL 及び同社の一部子会社及びメルコの一部子会社との間で請求される手数料及びシェアサービス費用が含まれます。同様に、本書に記載されているスタジオ・シティの調整後 EBITDA には、スタジオ・シティ・カジノにおけるVIP 事業に関する費用も反映されておりません。

財務状況と設備投資

2019 年6 月30 日時点の現金および銀行預金残高の総額は16 億米ドルであり、これには主にスタジオ・シティに関連する当初満期が3 カ月以上の銀行預金6,020 万米ドルと使途制限付の現金4,440 万米ドルが含まれます。負債総額は2019 年第2 四半期末時点の未償却繰延資金調達費用を控除して47 億米ドルでした。

2019 年第2 四半期の設備投資額は1 億7,370 万米ドルで、その大部分は空港への移動設備の増強及びシティ・オブ・ドリームスにおける各種プロジェクトに関わるものです。

配当指針の修正

余剰資本の株主還元に関する当社の責任を再確認するため、当社取締役会は、当社の現在の資金流動性と将来予期される資本ニーズの検討したうえで、四半期配当指針を四半期ごとに1 普通株当たり0.0517 米ドルの現金配当（普通株3 株を表彰する、ADS1 株当たり0.1551 米ドル）から四半期ごとに1 普通株式当たり0.05504 米ドルの現金配当（ADS1 株当たり0.16512 米ドル）へと変更しました。

新しい配当指針は、2019 年第2 四半期における当社取締役会の配当宣言より適用され、次回の修正又は異なる当社取締役会の決定がなされるまで継続されます。この新しい配当指針に基づく配当の支払いは当社の留保利益並びに将来利益、資産状況、将来のコミットメント及び取締役会が関連すると考えるその他の事情の影響を受けます。

当社取締役会は、株主利益の最大化のため、当社の財務業績及び市場状況を考慮して、当社の配当指針の適宜の見直しを継続します。

配当宣言

2019年7月24日、当社取締役会は2019年第2四半期において、普通株式1株当たり0.05504米ドル（ADS1株当たり0.16512米ドルに相当）の四半期配当（「四半期配当」）の宣言および支払いについて審議のうえ承認しました。四半期配当の受領資格者決定基準日である2019年8月5日の営業終了時点において当社株主名簿に氏名が記載されている株主の皆様へ、2019年8月15日頃に四半期配当が支払われます。

電話会議情報

メルコリゾート&エンターテインメント・リミテッドは2019年7月24日（水）米国東部時間午前8時30分（香港時間午後8時30分）に、2019年第2四半期決算に関する電話会議を行います。電話会議に参加するには、以下の番号をご利用ください：

US Toll Free	1 866 519 4004
US Toll / International	1 845 675 0437
HK Toll	852 3018 6771
HK Toll Free	800 906 601
Japan Toll	81 3 4503 6012
Japan Toll Free	012 095 9034
Philippines Toll Free	1 800 1612 0166

Passcode MLCO

また、オーディオ・ウェブキャストも<http://www.melco-resorts.com>にてご利用可能です。

ご利用の際には下記の番号をご利用ください：

US Toll Free	1 855 452 5696
US Toll / International	1 646 254 3697
HK Toll Free	800 963 117
Japan Toll	81 3 4580 6717
Japan Toll Free	012 095 9034
Philippines Toll Free	1 800 1612 0166

Conference ID 6765429

セーフハーバー条項

本プレスリリースには、1995年米国私募証券訴訟改革法(the U.S. Private Securities Litigation Reform Act of 1995)のセーフハーバー(safe harbor)条項で定められている「将来予想に関する記述」(forward-looking statements)が含まれています。書面あるいは口頭に関わらず、当社が米国証券取引委員会(U.S. Securities and Exchange Commission (SEC))に定期的に提出する報告書類、株主向けの年次報告書、プレスリリースその他の文書、および当社の取締役、役員、従業員が第三者に向けて話す発言内容にも、同様の「将来予想に関する記述」が含まれている場合があります。会社が信じていることや見込んでいることなど、過去の歴史的事実ではない内容はすべて「将来予想に関する記述」です。これらの「将来予想に関する記述」には、リスクや不確定要素が内在し、多くのさまざまな要因により、実際の結果が「将来予想に関する記述」の内容と著しく異なる場合があります。これらの要因とは、(i) マカオおよびフィリピンでのゲーミング市場及び訪問者の成長動向、(ii) 資本市場 および金融市場の変動、(iii) 地域および全世界レベルでの経済状況、(iv) 当社が見込んでいる成長戦略、(v) ゲーミング監督当局およびその他政府の認可および規制、(vi) 当社の将来的な事業展開、経営成績および財務状態などが含まれますが、この限りではありません。「かもしれない」、「だろう」、「期待される」、「予定である」、「目指す」、「狙う」、「見積る」、「意向である」、「計画である」、「信じる」、「潜在的な」、「継続する」、「となる模様」といった記述およびこれらに類似する表現により「将来予想に関する記述」を特定できる場合があります。それらのリスク、不確定要素、変動要因、その他に関するより詳細な情報は、当社がSECに提出する報告書類に記載されます。本プレスリリースに記述されるすべての情報は、本プレスリリースの日付時点のものであり、適用される法令において必要とされる場合を除き、当社はそれらの情報の訂正や更新をする義務を一切負いません。

MELCO RESORTS & ENTERTAINMENT JAPAN LIMITED
メルコリゾート&エンターテインメントジャパン株式会社

JAPAN HEADQUARTERS 本社
3F, PALACE BUILDING, 1-1-1 MARUNOUCHI CHIYODA-KU, TOKYO, 100-0005 JAPAN
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1 パレスビル 3F

OSAKA OFFICE 大阪オフィス
12F, PRIME SQUARE SHINSAIBASHI, 2-7-18 SHINSAIBASHISUJI CHUO-KU, OSAKA, 542-0085 JAPAN
〒542-0085 大阪府大阪市中央区心斎橋筋 2-7-18 プライムスクエア心斎橋 12F

会計原則以外の金融指標

- (1) 「調整後 EBITDA」には利子、税金、減価償却費、開業前費用、開発費、資産関連費用、株式報酬、フィリピンの協力団体(「フィリピン団体」)への支払い、Belle Corporation へ支払う地代、Belle Corporation への固定資産売却益純額、その他営業外損益は含まれていません。「調整後プロパティ EBITDA」には利子、税金、減価償却費、開業前費用、開発費、資産関連費用、株式報酬、フィリピン団体への支払い、Belle Corporation へ支払う地代、Belle Corporation への固定資産売却益、会社およびその他費用その他営業外損益は含まれていません。調整後 EBITDA と調整後プロパティ EBITDA は、ゲーミング企業の業績評価基準として広く使われている指標と思われるため、あくまで補足的な情報として公開しています。当社経営陣が調整後 EBITDA や調整後プロパティ EBITDA を使うのは、ゲーミング業界の業績評価や競合他社との業績比較をする場合です。当社が調整後 EBITDA と調整後プロパティ EBITDA を公開するのは、投資家によっては企業の借入れ・返済能力や資本的支出能力、資本要件を満たす能力を判断する際にこれらの指標を利用するためです。ゲーミング業界の企業は従来から、US GAAP に則り金融指標の補足として調整後 EBITDA と調整後プロパティ EBITDA を公開してきました。しかしながら、調整後 EBITDA および調整後プロパティ EBITDA を、営業利益に代わる当社業績指標として使用することはできず、営業活動によるキャッシュフローの代わりに流動性指標や US GAAP が規定するその他の指標として使うこともできません。純利益と異なり、調整後 EBITDA および調整後プロパティ EBITDA は減価償却費や支払利息を含んでいないため、現在および将来の資本的支出や資本コストを反映していません。当社はこれらの制約を考慮し、US GAAP の指標と併せて、調整後 EBITDA と調整後プロパティ EBITDA を業績評価の比較指標のみに使っています。

US GAAP の指標には、営業利益、純利益、営業活動によるキャッシュフロー、キャッシュフローデータなどがあります。当社が重要指標として使うキャッシュフローには、修正後 EBITDA や修正後プロパティ EBITDA に反映されない資本的支出や支払利息、借入金の元本返済、税金、その他経常費用、経常外費用が含まれています。また、当社の計算による修正後 EBITA や修正後プロパティ EBITDA は他社の算出方法と異なる可能性があるため、直接比較できない場合があります。当プレスリリースでの決算報告後、速やかに調整後 EBITDA と調整後プロパティ EBITDA を修正し、US GAAP に沿った同等の金融指標で算出のうえ公開いたします。

- (2) 「調整後純利益」には開業前費用、開発費、資産関連費、債務償還による減益及び債務修正に関連する費用などが含まれていません。さらに負債返済による損失、負債の条件変更に関する費用、非支配持分の純損失、各管轄の税法に準拠した課税措置による税金も含まれていません。メルコリゾートの調整後純利益およびメルコリゾートの 1 株当たり調整後純利益(「EPS」)は、ゲーミング企業の業績評価基準として広く使われている指標と思われるため、補足的な情報として公開しています。US GAAP で集計した純利益、EPS と併せて、これらの指標を当社の通期業績評価の補足資料として、経営者または投資家が利用することがあります。メルコリゾートの調整後純利益、およびメルコリゾートの 1 株当たり調整後純利益は、他社の算出方法と異なる可能性があるため、直接比較できない場合があります。当プレスリリースでの決算報告後、速やかにメルコリゾートの調整後純利益を修正し、US GAAP に沿った同等の金融指標で算出のうえ公開します。

メルコリゾート&エンターテインメント・リミテッドについて

米国預託株式(ADS)を米国 NASDAQ グローバル・セレクト・マーケット(NASDAQ : MLCO)に上場するメルコリゾート&エンターテインメント・リミテッドは、アジアにおける統合型リゾート施設の開発・所有・運営を行う会社です。当社は、現在、マカオのタイパ地区にあるゲーミングホテル、アルティラ・マカオ(www.altiramacau.com)およびマカオのコタイ地区にある統合型都市リゾート、シティ・オブ・ドリームス(www.cityofdreamsmacau.com)を運営し、マカオのコタイ地区にある映画をテーマとした統合型のエンターテインメント、リテール、ゲーミング・リゾートであるスタジオ・シティ(www.studiocity-macau.com)の株式の過半数を所有するとともに運営し、ノンゲーミングとしてはマカオ最大の電子ゲーミング・マシンの運営を手がけるモカ・クラブ(www.mochaclubs.com)を運営しています。また、フィリピンでは当社子会社がゲーミング、ホテル、リテールおよびエンターテインメントを統合したリゾート施設、シティ・オブ・ドリームス・マニラ(www.cityofdreams.com.ph)を運営しています。当社はクラウン・リゾート・リミテッドの株式を保有しています。同社は、オーストラリア証券取引所に上場しており、オーストラリアにおける 2 つの主要な統合型リゾートであるクラウン・メルボルン・エンターテインメント・コンプレックスとクラウン・パース・エンターテインメント・コンプレックスを運営する企業です。イギリスにおいて、クラウンはクラウン・アスピナルズというロンドンのハイエンドカジノを運営しています。クラウンの開発プロジェクトは、シドニー海岸のバラングルーでのクラウン・シドニー・ホテル・リゾートを含みます。また、クラウンはアスパーグループ及びノブの持分を保有し、複数のデジタルビジネス企業の株式を保有しています。詳しくは、www.melco-resorts.com をご覧ください。

MELCO RESORTS & ENTERTAINMENT JAPAN LIMITED
メルコリゾート&エンターテインメントジャパン株式会社

JAPAN HEADQUARTERS 本社
3F, PALACE BUILDING, 1-1-1 MARUNOUCHI CHIYODA-KU, TOKYO, 100-0005 JAPAN
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-1-1 パレスビル 3F

OSAKA OFFICE 大阪オフィス
12F, PRIME SQUARE SHINSAIBASHI, 2-7-18 SHINSAIBASHISUJI CHUO-KU, OSAKA, 542-0085 JAPAN
〒542-0085 大阪府大阪市中央区心斎橋筋 2-7-18 プライムスクエア心斎橋 12F

当社の筆頭株主は、ローレンス・ホーが率いるメルコ・インターナショナル・ディベロップメント・リミテッドです。同社は香港証券取引所に上場しています。

【投資に関するお問合せ先】

リチャード・ホアン
インベスター・リレーションズ担当ディレクター
Tel: +852 2598 3619
Email: richardlshuang@melco-resorts.com

【本件に関するお問合せ先】

メルコリゾート&エンターテインメントジャパン広報事務局（電通 PR 内）
菊地
Tel: 03-6263-9090